

高等教育の進学率の上昇と、社会福祉専門職の養成についての一考察

—資格取得以外のカリキュラムを学生がどう捉えるか—

○ 東北福祉大学 似内 寛 (6964)

キーワード：社会福祉士養成、高等教育、学生の質

1. 研究目的

本報告は、社会福祉士養成に高等教育が提供する、専門職資格の取得のためのカリキュラムにおいて、資格取得という目標以外に、人間や地域社会、制度などについて理解するための、種々の概念や理論、探求方法、倫理などを身につけることに関心を持つことを妨げる、いくつかの要因について考察することである。

18歳人口の減少と大学の増加からもたらされた、高校卒業者の多数派が進学するというユニバーサル化は、学生の学力や学習意欲の低下、学習目的、規範意識の希薄化、学習習慣のない学生の存在など、様々な問題をもたらしている。

高等教育における専門職の養成のカリキュラムは、資格を得るための「指定科目」に適合するように構成されるが、資格取得自体をカリキュラムの目的と設定しているわけではない。しかし社会福祉士を志望する学生の学習態度については、「科目選択が指定科目に偏る」、「社会福祉士資格取得という目標が社会福祉学習の目標と短絡する傾向がある」などの指摘がある。

資格取得の目的化と、少子化による学生の質の変化は、高等教育における専門職育成のカリキュラムや、その他の教養教育の意義を理解した上で、履修科目を選択することを難しくしていると考えられる。本報告では、専門職教育にとっての教養教育の意味と、それを理解することを妨げる要因について考察する。

2. 研究の視点および方法

本研究の視点は、社会福祉専門職育成を高等教育でおこなうことの意味を、高等教育に関する、専門職養成、学生の質の変化などに関する、教育社会学などのいくつかの研究成果から考察する

3. 倫理的配慮

文献及び資料を用いるため、引用部分を明確にすること等、日本社会福祉学会研究倫理指針に従い研究を行った。

4. 研究結果

日米英のソーシャルワークコースを目指す学生へのアンケート調査によれば、日本の学

生は、米英の学生と比較して、ソーシャルワーカーになることへの動機づけが弱い傾向があることがわかっている。

また、日本においては、“教育が職業的の準備に対して意義がある”という認識は、他国と比べて極端に低いとの指摘がある。原因として、日本における高度経済成長期の労働力不足と、終身雇用などの日本的雇用により、職業的な教育を受けることの意義を失わせたことがあげられている。これらの研究から、日本の学生は職業選択の動機付けが弱く、しかもその“職業に対して教育が役に立つものである”との認識も弱いと考えられる。

教育社会学の研究では、学業成績は就職に対して、“特定の学科を修了したという教育水準の証明価値として機能するもの”であり、専門的な技能が評価されるわけではないと指摘がある。職業上の訓練は教育では十分にできず、多くはOJTで行うものである、という考え方を裏付けるこのような研究成果もまた、職業的な教育の意義を弱めるものである。(もっとも職業的成功の「十分条件」と、学生の基礎学力を一定水準まで引き上げたり、職業に就くために、必要最低限必要な基礎的な知識を身につけさせたりといった、「必要条件」とは異なるものである。)

職業教育に限らないが、学生の質の変化と学習意欲との関係については、大学の授業の価値を、他の消費財と同様に、“効用や有効性があるか、または充足感や満足感を得られるものであるか”で判断する「授業の消費化」についての言説や、社会階層・下位グループの生徒にとって、学校での成功をあきらめ、現在の生活を楽しもうと意識の転換をはかることが、自己の有能感をたかめるという「インセンティブ・ディバイド」についての研究がある。

5. 考察

日本学術会議「近未来の社会福祉教育のあり方について」(2008)では、教養教育の見直しに触れ、「社会福祉士養成教育に偏るきらいのある福祉系大学教育の是正」のため、社会科学と人文科学の幅広い学習の必要性が述べられている。アメリカの複数の専門職育成においても「社会を理解する力、倫理的規範に基づいての行動、学術的な知識、関心を持っていることなど、総合的な力が専門職業に不可欠な要素である」と考えられている。

アメリカの専門職教育では、大学教育についていけない学生を学段落階で教育し、専門職教育と棲み分け、学力の保障、教養教育、前専門教育を行っている。しかし日本の社会福祉士は、学部教育のみで専門職の資格を得る。社会福祉の範疇はとても広いため、大学に入学した学生は、予備知識のない状態で、社会のありとあらゆる生活問題の理解と分析を行うための、多くの科目のシラバスと、それに関連したさまざまな関連領域の学問を理解し、授業を受ける意味を解釈する必要に迫られる。学生は社会福祉についての動機が稀薄で、さらに教育が職業的意義も低く認識しているため「資格取得に役に立つ・立たない」を基準とし、大学での授業に臨むのではないだろうか。